
【空飛ぶ赤は世界を見た】

柚季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【空飛ぶ赤は世界を見た】

【Nコード】

N4238C

【作者名】

柚季

【あらすじ】

空を泳いでみたかった。あの、広々とした青を、自由に。

世界は美しい、とてもとても。それが彼の口癖でした。

食べ物をくれる大きな生き物は少し怖かったけれど彼はその生き物を嫌ってはいませんでした。

彼の世界は透明な壁に囲まれています。そこから望む新たな世界はゆらゆら揺れてきらりと光り、歪んでいるにもかかわらず鮮烈な輝きを放つのです。

宙を見上げると気泡はこぼりと音をたてて、世界はなんて綺麗で小さいのかと愚痴った小さな声すらも掻き消してしまうです。

この透明な柵からは青々とした空が見えました。今日はいつもより一層深く、世界も青く映し出します。そうして今日は世界が酷く揺れます。窓が開いているのです。

これは、彼にとってチャンスでした。

（僕は空で泳ぐんだ）

行こうと覚悟を決めて、毎日練習していたジャンプをします。

高く、高く飛びました。

宙を舞い、空に溶け自由に泳ぐつもりでした。

あの深い水色のなかをゆっくりと味わって、そうして自分の世界である家に帰るつもりだったのです。ちょっとした、冒険のつもり。

ですが、空を泳ぐというのは空が水だと思っていたからこそその夢。空飛ぶ金魚はぺちやりと地に堕ちてしまいました。

ぴちゃりぴちゃりと跳ねただけけど、そこは汚らしい地面でしかなく、きらめき、かがやいていた七色の夢のような世界はありませんでした。

ぱくりぱくりと呼吸を求めて喘いでも、誰も見つけてはくれません。

ぱたりぱたりと尾を動かしても土色に染まっていっただけ。

意識が遠のく刹那、自分の世界であつた揺らめく水が見えた気がしました。

まあるいまある硝子の、小さな小さな世界で生きていた彼は微笑を浮かべました。

（世界を外から眺めながら死ぬのも悪くないかな）

その想いは泡になった人魚姫のように儚く、深い深い空色へと消えていきました。

赤い金魚はゆっくりと天に昇っていきます。

夢見た空へ。

【終】

（後書き）

窓から望む世界と、そこから飛び出たときに見える世界は全く違う
っていうお話でした。

だけど、いつか叶うかもしれない。そんな願いをこめて。
最後までよんでいたいただきありがとうございました！

批評感想などくださればうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4238c/>

【空飛ぶ赤は世界を見た】

2010年10月16日05時55分発行